

ジュニアマイスター顕彰制度について①

＜主催＞全国工業高等学校長協会

＜目的＞資格の取得や競技会等での成果を表彰することにより、生徒の意欲と技術・技能の向上を目的とする。

＜顕彰の方法＞主に工業教育に関わる資格、競技会、コンクール等200項目程度を選定し、その難易度や重要度を点数化し、表(区分表)を作成。

30点以上にはジュニアマイスターシルバー

45点以上にはジュニアマイスターゴールド

の称号を外部委員からなる認定委員会が学校長から申請のあった生徒に対し付与する。

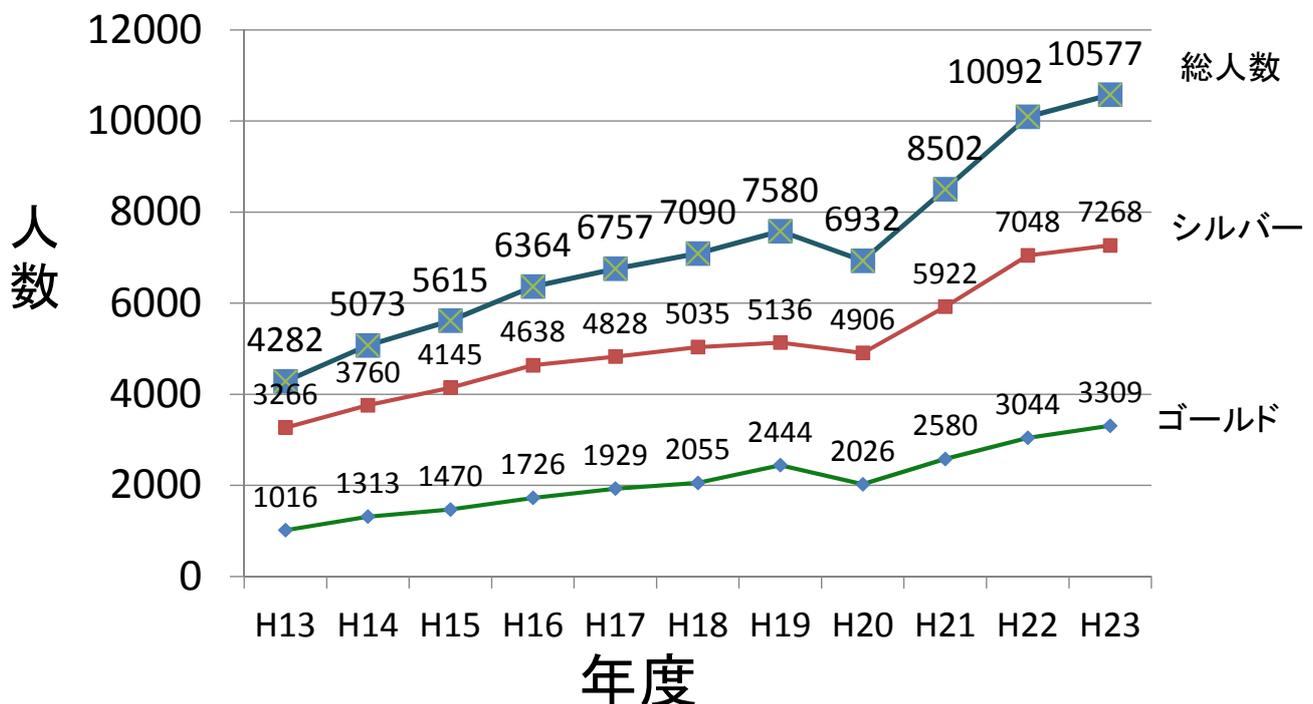
＜主な資格や競技会＞

ランク	ポイント	主な資格や競技会	
S	30	電気主任技術者3種	高校生ものづくりコンテスト全国大会1位
A	20	各職種技能士2級	若年者ものづくり競技大会1位
B	12	品質管理検定2級	
C	7	電気工事士2種	高校生ものづくり県大会優勝
D	4	危険物取扱者乙種4類	高校生ものづくり大会県大会入賞
E	2	アマチュア無線技士3級	各種技能系競技会県大会入賞
F	1	ガス溶接等技能講習	

1

ジュニアマイスター顕彰制度について②

ジュニアマイスター認定者の推移



2

ジュニアマイスター顕彰制度が 大学入試等で活用されている例(1)

(HPから抜粋)

- A大学：ジュニアマイスターAO入試
ロボットコンテストやソーラーカーレースなどの大会で活躍できる人材を募集。
ジュニアマイスターゴールドで特に優秀な者は学費半額
- B大学：資格推薦入学
各学科の指定する資格・コンテストを一つ以上取得すれば受験可能。
ジュニアマイスターゴールド特待生
ジュニアマイスター特待生は年間授業料1/2相当額4年間免除。

ジュニアマイスター顕彰制度が 大学入試等で活用されている例(2)

(HPから抜粋)

- C大学：特別奨学生入試
学業成績が優良で、秀でた特徴(*)を有し・・・
* 秀でた特徴とは、ジュニアマイスター顕彰に関わる資格・検定のBランク以上の取得者。
- D大学：推薦入試
ジュニアマイスターゴールドに認定されている者
また、それに相当する資格を有する者が対象。
- E大学：入学生対象
ジュニアマイスターの顕彰制度に基づく称号を有する入学生に対し、奨学金を給付。

専門高校で取り組む主な資格等

学 科	本 科	専攻科
農業に関する学科	毒物劇物取扱責任者、危険物取扱者（乙・丙種）、ボイラー技士（二級）、大型特殊運転免許、家畜人工授精師、測量士、測量士補、土木施工管理技士（2級）、クレーン運転士、造園技能士、造園施工管理技士（2級）、園芸装飾技能士、車両系建設機械運転技能者、公害防止管理者、土木施工技術者、初級園芸福祉士、実験動物二級技術者、家庭動物販売士（三級）、初級バイオ技術者認定試験	
工業に関する学科	技能士（三級）、電気工事士（第一・二種）、電気主任技術者（第三種）、自動車整備士（三級）、ボイラー技士（二級）、土木施工管理技士（2級）、建築施工管理技士、管工事施工管理技士、陸上・海上特殊無線技士（第一・二・三級）、測量士、測量士補、ITパスポート試験、基本情報技術者、危険物取扱者（乙・丙種）、消防設備士（甲・乙種）、公害防止管理者（水質・大気）、火薬類取扱保安責任者（甲・乙種）、車両系建設機械運転技能者、クレーン等運転士、毒物劇物取扱責任者、工事担任者（アナログ第一・二・三種、デジタル第一・二・三種、アナログ・デジタル総合種）、トレース技能検定	自動車整備士（二級） 建築士（二級） 技能士（二級）
商業に関する学科	税理士試験（簿記論、財務諸表論）、ITパスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、ネットワークスペシャリスト試験、データベーススペシャリスト試験、FP（ファイナンシャル・プランナー）、旅行業務取扱責任者、簿記検定、小売商（販売士）検定、秘書技能検定、実用英語技能検定	
水産に関する学科	海技士（四・五級）、小型船舶操縦士（一・二級）、第三級総合無線通信士、陸上・海上特殊無線技士、工事担任者、冷凍機械責任者（三種）、ボイラー技士（二級）、危険物取扱者（乙・丙種）、潜水土、ガス溶接技能者、玉掛け技能者、潜水技術検定、栽培漁業技術検定、情報通信技術検定、食品技能検定、HACCP基本技能検定、漁業技能検定、エンジン技術検定	海技士（三級）、船舶衛生管理者、総合無線通信士（第一・二級）
家庭に関する学科	調理師、製菓衛生師、介護職員初任者研修、被服製作技術検定、食物調理技術検定、保育技術検定、色彩能力検定、カラーコーディネーター検定、秘書技能検定、サービス接客検定	保育士
看護に関する学科	准看護師	看護師
情報に関する学科	基本情報技術者試験、ITパスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、ネットワークスペシャリスト試験、データベーススペシャリスト試験、CGエンジニア検定情報検定（J検）、デジタルコンテンツクリエイター認定試験、デジタル技術検定	
福祉に関する学科	介護福祉士、介護福祉士実務者研修、介護職員初任者研修	

校長会等が実施する検定試験

実施団体等	No.	検定名	段級位等	検定日
日本農業技術検定協会	1	日本農業技術検定	1, 2, 3級	7月, 12月
(公社)全国工業高等学校長協会	1	標準テスト	—	2月
	2	計算技術検定	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	3	情報技術検定	1, 2, 3級	1月, 6月
	4	基礎製図検定	—	9月
	5	パソコン利用技術検定	1, 2, 3級	7月, 12月
	6	機械製図検定	—	6月
	7	リスニング英語検定	1, 2, 3級	10月
	8	初級CAD検定	—	7月
	9	グラフィックデザイン検定	1, 2, 3級	1月
(公財)全国商業高等学校協会	1	ビジネス文書実務検定試験	1, 2, 3, 4級(速記部門について、5段～初段の段位認定あり)	6月, 11月, 2月
	2	情報処理検定試験	1, 2, 3級	1月, 9月
	3	珠算・電卓実務検定試験	1, 2, 3, 4, 5, 6級	6月, 11月
	4	簿記実務検定試験	1, 2, 3級	1月, 6月
	5	英語検定試験	1, 2, 3, 4級	9月, 12月
	6	商業経済検定試験	1, 2, 3級	2月
	7	会計実務検定	財務諸表論、財務諸表分析	10月
	8	ビジネスコミュニケーション検定試験	—	7月
全国水産高等学校長協会	1	高等学校水産海洋技術検定	—	1～2月
	2	高等学校漁業技術検定	—	7～9月, 12～2月
	3	高等学校通信技術検定	—	1月
	4	高等学校海洋情報技術検定	1, 2級	2月, 7月
	5	高等学校栽培漁業技術検定	1, 2級	6月, 12月
	6	高等学校潜水技術検定	上, 1, 2, 3級	7～8月, 11～12月
	7	高等学校食品技能検定	1, 2, 3類	1月, 7月
	8	HACCP基本技能検定	—	1月, 7月
	9	高等学校エンジン技術検定	1, 2級	7～8月, 12～2月
(公財)全国高等学校家庭科教育振興会	1	全国高等学校家庭科技術検定(被服)	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	2	全国高等学校家庭科技術検定(食物)	1, 2, 3, 4級	6月, 11月
	3	全国高等学校家庭科保育技術検定	1, 2, 3, 4級	6月, 10月

※看護、福祉、情報については、校長会等が実施する検定試験はないが、それぞれ関係の国家資格や国家試験等を目指している。

校長会等が実施する生徒の発表大会等

実施団体等	No.	大会等名	種類等	開催月
日本学校農業クラブ連盟	1	日本学校農業クラブ全国大会	プロジェクト発表会、意見発表会、平板測量競技会、農業鑑定競技会	10月
(公社)全国工業高等学校長協会	1	全国高等学校ロボット競技大会		11月
	2	高校生ものづくりコンテスト全国大会	旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測量	11月
	3	高校生ロボット相撲全国大会		11月
	4	高校生技術・アイデアコンテスト		1月
	5	高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会		2月
	6	マイコンカーラリー		1月
	7	全国製図コンクール		12月
全国商業高等学校長協会	1	全国高等学校簿記コンクール		7月
	2	全国高等学校情報処理競技大会		7月
	3	全国高等学校珠算・電卓競技大会		8月
	4	全国高等学校ワープロ競技大会		8月
	5	全商プログラミング・コンテスト		9月
	6	全国高等学校生徒商業研究発表大会		11月
	7	全国商業高等学校英語スピーチコンテスト		1月
全国水産高等学校長協会	1	全国水産・海洋高等学校ダイビング技能コンテスト		8月
	2	全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会		12月
	3	全国水産・海洋高等学校カッターレース大会		7月
	4	全国水産・海洋高等学校食品技能コンテスト全国大会		7月
	5	全国水産・海洋高等学校フィッシング技能コンテスト		7月
全国高等学校家庭クラブ連盟	1	全国高等学校家庭クラブ研究発表大会	ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動	8月

主な英語の外部試験

試験名	実施主体	主な目的	主な受験者層	受験人数	実施回数	成績の表示方法	出題形式	受験料
実用英語技能検定	公益財団法人 日本英語検定協会	日常生活から広く社会生活で必要とされている英語力を7段階のレベル(級)に分けて評価。 ・350以上の海外大学において入学資格として認定。	・小学生 ・中学生 ・高校生 ・大学生 ・社会人	約230万人(H23実績)	3回/年	・1級から5級(7つの級)で合格による成績表示。	◆一次試験 ・リーディング/リスニング/ライティング ※2級～5級は全てマークシート形式 ※1級・準1級はライティングが追加され記述形式 ◆二次試験 ・スピーキング ※3級以上面接方式	・1級:7,500円 ・準1級:6,000円 ・2級:4,100円(3,900円) ・準2級:3,600円(3,400円) ・3級:2,500円(2,300円) ・4級:1,500円(1,300円) ・5級:1,400円(1,200円) ※括弧内は、準会場受験の場合
TOEFL® テスト (TOEFL iBT®)	テスト制作は、米国の Educational Testing Service (ETS) (日本では国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部がTOEFLテスト事務局として広報・周知活動を実施。)	英語を母国語としない人の英語能力を測定 ・留学 ・英国、オーストラリアビザ申請条件	・高校生 ・大学生 ・社会人	非公表 (全世界統一)	30-40回/年	・0-120点(4技能を各0-30点で評価) ・合格判定無 ・受け入れ機関(TOEFLテストスコア利用団体)がスコアを設定	インターネット形式 ・リーディング/リスニング/スピーキング(マイク利用)/ライティング(タイピング) (スピーキング、ライティングには、読んで聞いて話すもしくは読んで聞いて書く、の複合技能測定問題が含まれる。)	通常申込 US225 ^{ドル} (毎年7月に改定可能性有) (国により受験料は異なる) (金額はドル表示であるが、支払時に日本円表記のオプションあり)
TOEIC®テスト (リスニングテスト/ リーディングテスト)	テスト制作は、米国の Educational Testing Service (ETS) (日本では一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会が実施)	・一般からビジネスまで幅広い英語によるコミュニケーション能力(「聞く、読む」能力)を測定する。 ・全国405校(大学・短大・高専)で入学試験に活用。	・高校生 ・大学生 ・社会人	高校・大学・団体・企業 3200団体で約230万4千人(H24実績) ※全世界では150カ国、約700万人	【公開テスト】 10回/年 【団体特別受験制度】 団体内で任意の日程で実施。	・リスニングスコア5~495点 ・リーディングスコア5~495点 ・トータルスコア10~990点	・リスニング/リーディング (マークシート方式)	5,565円(4,040円) ※括弧内は、団体特別受験制度を利用した場合
TOEIC® スピーキングテスト/ ライティングテスト	テスト制作は、米国の Educational Testing Service (ETS) (日本では一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会が実施)	国際的な職場環境において、効果的に英語でコミュニケーションするために必要な「話す、書く」能力を測定する。	・高校生 ・大学生 ・社会人	企業・団体・学校140団体で約1万1千人(H24実績) ※全世界では25カ国	【公開テスト】24回/年 土曜または日曜の午前・午後1回ずつ 【団体特別受験制度】 団体内で任意の日程で実施。	・スピーキングスコア 0~200点 ・ライティングスコア 0~200点	・スピーキング パソコン上で音声を吹き込む ・ライティング パソコン上で文章を入力	9,975円(8,800円) ※括弧内は、団体特別受験制度を利用した場合 ※スピーキング/ライティングいずれか受験(各6,000円)
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、IDP(IELTS オーストラリア)、ケンブリッジ大学 ESOL 共同運営 (日本では公益財団法人日本英語検定協会)	・留学、海外移住など	・大学生 ・社会人	約1万5千人(H23実績) ※全世界では120カ国、約170万人	公開試験:最大で28回/年(開催時期と回数は都市により異なる)	・1.0から9.0までの0.5刻みで成績表示(1.0 = Non-user~9.0 = Expert user)	・リーディング&リスニング (解答用紙への記述) ・スピーキング (1対1の面接方式) ・ライティング (解答用紙への記述)	24,675円
GTEC for STUDENTS	株式会社ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services, Inc.	・大学での入学資格認定 ・英語運用力の測定 ・学校における技能別指導検証	・中学生 ・高校生	約62万人/約1,200校(H24実績) ※日本の高校生が最も多く受験するスコア型検定	統一検定日は7月・12月 実施は通年で可能。	・グレード1~7 ・スコア0~810 グレード1(~299)=挨拶程度のコミュニケーションができるレベル グレード7(710~810)=大学での専門教育を英語で学べるレベル	・リーディング(多肢選択) ・リスニング(多肢選択) ・ライティング(自由記述) ・スピーキング(発話)※オプション	3,000円 ※学校申込
GTEC	株式会社ベネッセコーポレーション	・英語による総合的なコミュニケーション能力を測定	・大学生 ・社会人	約2万人(H24実績)	通年	・スコア0~1000	・リーディング(多肢選択) ・リスニング(多肢選択) ・ライティング(記述) ・スピーキング(発話) ※4技能ともコンピュータで実施	12,600円
TEAP	公益財団法人 日本英語検定協会 ※上智大学と共同開発	・大学教育レベルにふさわしい英語力の測定	・高校3年生以上	約300人(H23実績) (上智大学AO入試および推薦入試としての実績)	・2014年度は年間3回全国7箇所で開催(リーディング&リスニング 7月・9月・12月)。 ※スピーキングとライティングは2014年度は一部地域で実施。2015年度より全国で実施予定。	スコアと世界的に利用されているCEFRIによる成績表示(4段階: Below A2=準2級未満、A2=準2級程度、B1=2球程度、B2=準1級程度)・スコアは各技能別に20-100。	・リーディング&リスニング (マークシート方式) ・スピーキング(1対1の面接方式) ・ライティング(解答用紙への記述)	・リーディング&リスニング 6000円(予定) *スピーキングとライティングは検討中。

高等学校の新たな教育改革に向けた調査研究

(平成25年度予算額 159百万円)
平成26年度概算要求額 143百万円

(目的) 生徒の多様な教育ニーズに応じ、高校教育が非常に多様化した中で、生徒に確かな学力や学習意欲の向上等を身に付けさせるなど、高校教育の質の向上に向けて一層の取組を推進。

○ 高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究

教育委員会等への委託により、高校教育を通じて身に付けるべき資質・能力を多面的に評価する手法について調査研究を実施。

○ 高校生の学習到達度把握に関する検討委員会

高校生の基礎的・共通的な学習状況の把握のための調査の仕組み等についての検討委員会を設置。

事業イメージ

文部科学省
(評価・推進委員会)

・審査、委託
・フォローアップ
・成果普及

・多様な学習成果
評価手法に係る
開発計画の提案
・成果報告

教育委員会、大学、団体等

・評価手法の開発
・成果の検証・とりまとめ

・評価実施依頼
・実施経費支援

・成果報告

高校

高校

高校

・教育活動の実践を通じた評価手法
の実施

(研究内容のイメージ)

・高校生の学習活動において、各段階ごとの達成目標の明確化や、当該目標に照らした評価指標の設定などにより、その学習状況の評価の信頼性・妥当性を高めていくための研究(ルーブリックを活用したパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価など)

・学習意欲や聞く力、話す力、考えをまとめる力等の資質能力を評価できる指標と学習内容の定着との関係を明らかにするための、日々の学習成果を活用した評価手法の研究。

・専門高校等において、各種検定試験や技能検定等を活用した評価スキームやポートフォリオ評価の活用等、共通の評価指標を設定し、生徒の育成すべき資質・能力を適正に評価する手法の研究。

学習評価の意義・目的

- 生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有する
- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要〔指導と評価の一体化〕
- 新学習指導要領においてもきめの細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価を引き続き実施

生徒指導要録における学習評価(主なポイント)

各教科・科目の評定

- 高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総合的に評価(5～1の5段階)
- 評定に当たっては、観点による評価(「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」)を十分踏まえる

※ 高等学校の指導要録の参考様式には、観点別学習状況の記載欄を設けていない

(生徒の特性、進路等に応じて多様な教育課程が編成されていることや、高等学校の指導要録の現状を考慮して、大枠のみを示している)

※ 都道府県教育委員会等において、指導要録に観点別学習状況を記載できるようにすることも有効な手段

総合所見及び指導上参考となる諸事項

- 生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で記述
 - ① 各教科・科目や総合的な学習の時間の学習に関する所見
 - ② 行動に関する所見
 - ③ 進路指導に関する事項
 - ④ 取得資格
 - ⑤ 生徒が就職している場合の事業所
 - ⑥ 生徒の特徴・特技、部活動、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査に関する記録など
 - ⑦ 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

(参考) 観点による評価

- 通知に示した各教科の評価の観点及びその趣旨を十分踏まえながら、それぞれの科目のねらいや特性を勘案して具体的な評価規準を設定するなど評価の在り方を工夫
- 単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において、「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価
- 学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択



新学習指導要領を踏まえた観点の設定

- 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定
- 従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、「技能」に改める

新しい観点

「関心・意欲・態度」

「思考・判断・表現」

「技能」

「知識・理解」

「関心・意欲・態度」…各教科・科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価

「思考・判断・表現」…それぞれの教科・科目の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を生徒が身に付けているかどうかを評価

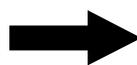
「技能」…各教科・科目において習得すべき技能を生徒が身に付けているかどうかを評価

「知識・理解」…各教科・科目において習得すべき知識や重要な概念等を生徒が身に付けているかどうかを評価

※ 各教科の評価の観点は上に示した観点を基本としつつ教科の特性に応じて設定

学力の3つの要素との整理

基礎的・基本的な知識・技能



「技能」

及び

「知識・理解」

で評価

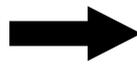
課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等



「思考・判断・表現」

で評価

主体的に学習に取り組む態度



「関心・意欲・態度」

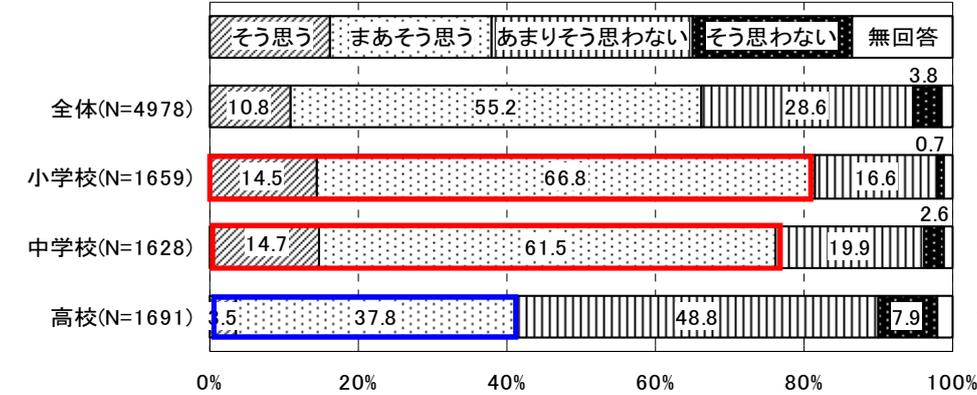
で評価

高等学校における学習評価の現状について

(「学習指導と学習評価に対する意識調査」平成21年度文部科学省委託調査より抜粋)

4 観点の評価の定着に関する小・中・高等学校の教師の意識の比較

いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり、定着してきている

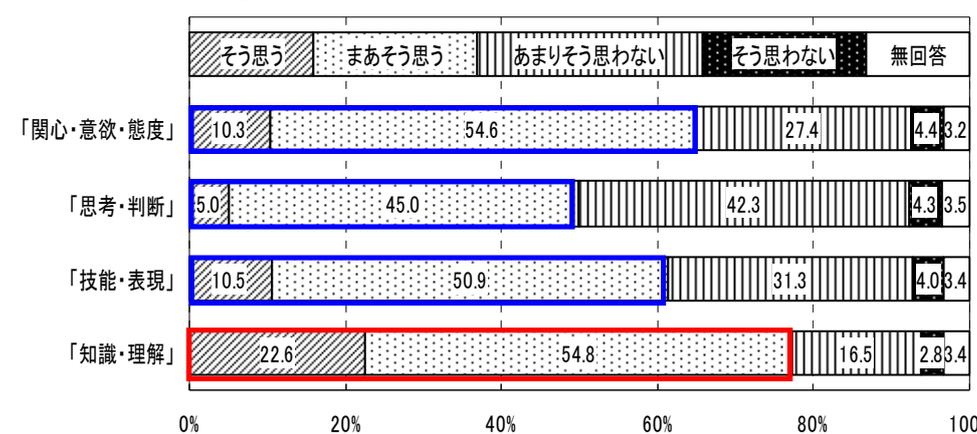


小学校教師: 約81%
中学校教師: 約76%
高等学校教師: 約41%

いわゆる4観点の評価は実践の蓄積があり、小中学校では、定着しているが、高等学校は状況が異なる

観点別学習状況の評価の実施に関する高等学校の教師の意識 (各観点毎の比較)

観点別学習状況の評価の実施状況[高校(N=1691)]

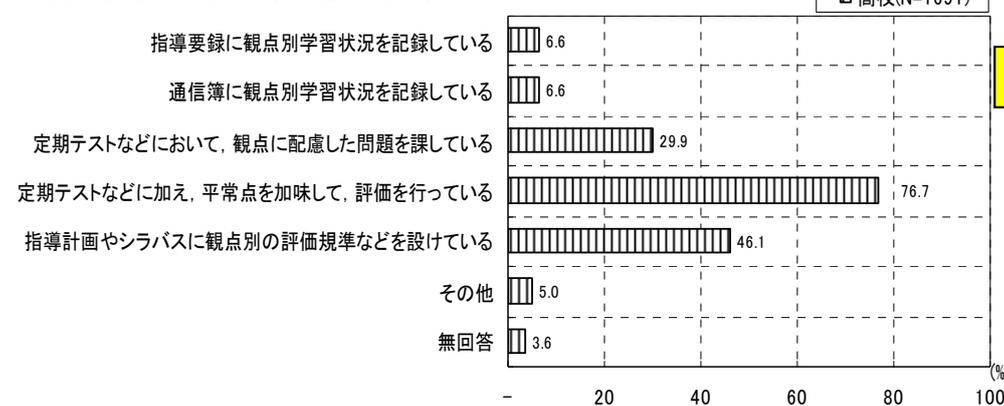


関心・意欲・態度: 約65%
思考・判断: 約50%
技能・表現: 約61%
知識・理解: 約77%

「知識・理解」は約8割の教員が円滑に実施していると回答している一方で、「思考・判断」は約半数の教員が円滑に実施できていないと回答

高等学校における観点別学習状況の評価の実施状況

所属学校における観点別学習状況の評価の実施状況(高校のみ)



「指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている」教師は約46%

「指導要録」や「通信簿」に観点別学習状況を記録している教師は約7%

高等学校では、小・中学校ほど観点別学習状況の評価が定着していない

高等学校（全日制の課程・定時制の課程）生徒指導要録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

（参考7-②）

区分	学年	1	2	3	4
ホームルーム					
整理番号					

学 籍 の 記 録						
生 徒	ふりがな			性 別	入学・編入学	平成 年 月 日 第1学年 入学
	氏名					第 学年編入学
	生年月日	平成 年 月 日生		転 入 学	平成 年 月 日	
	現住所			転学・退学	平成 年 月 日	
保 護 者	ふりがな			留 学 等	平成 年 月 日	
	氏名				～平成 年 月 日	
	現住所			卒 業	平成 年 月 日	
入学前の経歴	平成 年 中学校卒業		進 学 先 就 職 先 等			
学 校 名 及 び 所 在 地 <small>（分校名・所在地等）</small>						
課程名・学科名						
年 度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	
区分 / 学年	1	2	3	4		
校長氏名印						
ホームルーム 担任者氏名印						

(様式1裏面)

各教科・科目等の修得単位数の記録

各学科に共通する各教科・科目	教科	科目	修得単位数の計
	国語	国語総合	
		略	
		〃	
	地理歴史	〃	
		〃	
		〃	
	公民	〃	
		〃	
		〃	
	数学	〃	
		〃	
		〃	
	理科	〃	
		〃	
		〃	
	保健体育	〃	
		〃	
	芸術	〃	
		〃	
〃			
外国語	〃		
	〃		
	〃		

主として専門学科において開設される	教科	科目	修得単位数の計
	家庭	〃	
		〃	
		〃	
	情報	〃	
		〃	
	学校設定教科	〃	
		〃	
		〃	
		〃	
		〃	
	農業	〃	
		〃	
	工業	〃	
		〃	
	商業	〃	
		〃	
	水産	〃	
		〃	
	家庭	〃	
〃			
看護	〃		
	〃		

各教科・科目	教科	科目	修得単位数の計
	情報	〃	
		〃	
	福祉	〃	
		〃	
	理数	〃	
		〃	
	体育	〃	
		〃	
	音楽	〃	
		〃	
	美術	〃	
		〃	
	英語	〃	
		〃	
	学校設定教科	〃	
		〃	
		〃	
		〃	

総合的な学習の時間	
-----------	--

留学	
----	--

生徒氏名

総合的な学習の時間の記録	
学習活動	
評価	

特別活動の記録			
第1学年	第2学年	第3学年	第4学年

総合所見及び指導上参考となる諸事項	
第1学年	
第2学年	
第3学年	
第4学年	

出欠の記録							
区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	留学中の 授業日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備考
1							
2							
3							
4							